

言語文化教育研究学会 第9回年次大会プログラム

一日目：2023年3月4日（土）

10:00-10:20 開会式 (C303)				
10:35-12:05 フォーラム				
C204	C301	C302	C303	C304
<p>ビジュアル・ナラティブを紐解くー学習者が描く外国語および外国語学習の絵から教える側は何を学ぶかー</p> <p>(鈴木栄, 東京女子大学/水戸貴久, 別府溝部学園短期大学/松崎真日, 福岡大学)</p>	<p>言語文化教育, 演劇, コンヴィヴィアリティー演劇は学習者を操作的な道具から解放する手段となり得るか?ー</p> <p>(飛田勘文, 芸術文化観光専門職大学/中山由佳, 山梨学院大学/西村由美, 関西学院大学)</p>	<p>漂流する他人事としての“共生”概念ーコンヴィヴィアルな当事者性・自立(依存)・支援・教育ー</p> <p>(宮本敬太, 立命館大学/中井好男, 大阪大学/岡田祥平, 新潟大学/丸田健太郎, 広島大学附属小学校/金志唯・神谷志織, 広島大学)</p>	<p>「地域日本語教育」の「地域」について考えてみませんか?ー視点を定めることで見えてくる多様な地域日本語教育のあり方ー</p> <p>(家根橋伸子, 東亜大学/山本晋也, 周南公立大学/小口悠紀子, 広島大学/帖佐幸樹, 東亜大学)</p>	<p>言語文化教育におけるクリティカルペダゴジーの示唆</p> <p>(オーリ・リチャ, 千葉大学/杉原由美, 慶應義塾大学)</p>
12:05-13:00 昼休み				
13:00-14:30 フォーラム				
C301	C302		C303	
<p>[委員企画] Round talk'n 2022 コン_ヴィヴィアリティ</p> <p>(尾辻恵美, シドニー工科大学/佐野香織, 長崎国際大学/嶋津百代, 関西大学)</p>	<p>インクルーシブな言語学習環境をめざしたケース教材の開発ー言語教育関係者のアウェアネスを高めるためにー</p> <p>(植村麻紀子, 神田外語大学/古屋憲章, 山梨学院大学/池谷尚美, 横浜市立大学/中川正臣, 城西国際大学/山崎直樹, 関西大学)</p>		<p>ALCE事務局第2第3世代が考えるALCEのこれまでとこれからー国際性・公共性・キャリア・持続可能性ー</p> <p>(小島卓也, 長崎大学/内山喜代成, 桜美林大学/本間祥子, 千葉大学/柳井優哉, シドニー工科大学/尹恵彦, 関西大学)</p>	

14:40-15:50 口頭発表 30分			
C301	C302	C303	C304
<p>14:40-15:10 [オンライン発表] コロンビア人日本語教師ルスさんのライフストーリー—移住地の日本語学校における日本語学習及び教育についての語りを中心に—</p> <p>(近藤弘, アインシャムス大学)</p>	<p>目標達成/ケアと計画性/偶発性による授業参観の4観点—授業参観者としての変遷と発見の自己報告—</p> <p>(杉原颯太, 京都大学)</p>	<p>中国人日本語専攻の大学生における社会的アイデンティティの形成—一人の女子学生のケーススタディー—</p> <p>(鄭若男, 広島大学)</p>	<p>日本語学習者のコミュニケーション・スキル育成のための「対話」の役割と今後の可能性</p> <p>(李思雨, 東京大学)</p>
<p>15:20-15:50 [オンライン発表] 保育園と外国籍家族のコミュニケーション資源開発の取り組み—「ことば観」の解きほぐしに向けて—</p> <p>(井出里咲子, 筑波大学/狩野裕子, 筑波大学/佐野惇朗, 筑波大学)</p>	<p>[オンライン発表] Well-beingを視座とすることで始まることばの学びのダイナミクス</p> <p>(荻野雅由, カンタベリー大学/佐野香織, 長崎国際大学)</p>	<p>小学校英語教育参考書に見られる「学習者モデル」という学級担任像の検討</p> <p>(大石海, 東京大学)</p>	<p>Webニュース動画の理解促進と意見形成のための発問—大学初年次留学生教育として—</p> <p>(清水美帆, 帝京大学/平田好, 帝京大学/有田佳代子, 帝京大学)</p>
16:00-18:00 パネルセッション			
C301	C302	C303	C304
<p>ことばを学ぶ学習者たちの越境—彼らはどのように境界を越え、何を学んだのか—</p> <p>(島崎薫, 東北大学/小島卓也, 長崎大学/福井なぎさ, UNSW Sydney/トムソン木下千尋, UNSW Sydney/田嶋美砂子, 茨城大学/大原哲史, 立命館アジア太平洋大)</p>	<p>留学生のキャリア形成支援に関わる人・組織の連携を考える—日本語学校・大学・大学院の事例から—</p> <p>(寅丸真澄, 早稲田大学/齊藤千鶴, ARC東京日本語学校/中島智, 羽衣国際大学/中本寧, なかさん本舗代表/松野芳夫, NPO 法人アジアの新しい風/佐藤正則,</p>	<p>評価は学び手と社会をいかにつなごうとしてきたか?—日本語教育の評価をめぐる言説分析から—</p> <p>(南浦涼介, 東京学芸大学/三代純平, 武蔵野美術大学/中川祐治, 大正大学)</p>	<p>地域と大学の連携で「つながる」を越えて何をを目指すのか?—日本語学習支援・多文化交流における地域と大学の変容型パートナーシップに向けて—</p> <p>(北出慶子, 立命館大学/澤邊裕子, 宮城学院女子大学/中川祐治, 大正大学/早矢仕智子, 宮城学院女子大学/遠藤知佐, 立命館大学/西村聖子, 大阪国際文化協会/川田麻記,</p>

学)	山野美容芸術短期大学／松本明香，東京立正短期大学／家根橋伸子，東亜大学)	桜美林大学／牧田東一，桜美林大学／佐藤弘子，町田国際交流センター子ども教室部会／山口洋典，立命館大学)
----	--------------------------------------	---

二日目：2023年3月5日（日）

10:00-12:30 大会シンポジウム「コン_ヴィヴィアリティと言語教育」(E101)			
シンポジスト：岩城あすか（箕面市国際交流協会），榎井縁（大阪大学），山崎亮（studio-L／関西学院大学），山住勝広（関西大学）※ 司会：大平幸（立命館アジア太平洋大学）			
※諸般の事情により山住氏の発表はキャンセルになりました。			
12:30-13:30 昼休み			
13:30-15:30 ポスター発表			
1 (C204)	2 (C204)	3 (C204)	4 (C204)
13:30-14:30 日本語母語話者と中国語母語話者の「感謝の表し方」についての PAC 分析 (S. M. D. T. ランプクピティヤ，久留米大学)	13:30-14:30 言語文化間を移動する移民第二世代はいかに位置取りをするのか—別の地点へ行き着くポジショナリティと境界線を描きかえるポジショナリティ— (遠藤ゆう子，早稲田大学)	13:30-14:30 技能実習生の言語使用に関する研究—漁業に従事するインドネシア人技能実習生への調査から— (西村愛，東京女子大学)	13:30-14:30 複言語環境で育つ子どものことばと教育—ムスリムの小中学生への言語使用調査をもとに— (五嶋友香，東京女子大学)
5 (C204)	6 (C205)	7 (C205)	8 (C205)
13:30-14:30 自己表現を目指した日本語作文指導—「逆向き設計」論にもとづくパフォーマンス課題の導入— (田野茜，京都大学)	13:30-14:30 留学生にとっての「キャリア観」とは何か—元留学生の「語り」から捉えるキャリア観形成プロセス— (畑あやか，立命館大学)	13:30-14:30 言語とケイパビリティ—日本社会における移住者の生活世界に着目して— (工藤理恵，フェリス学院大学)	13:30-14:30 「やさしい日本語」講座担当者が考える「やさしい日本語」とは何か (辻本桜子，愛知淑徳大学)

9 (C204)	10 (C204)	11 (C204)	12 (C204)
14:30-15:30 日本語教師養成課程修了後、新卒で日本語教師を選択した人のキャリア発達と意識変容—TEA を用いた事例研究として— (井筒琴子, 立命館大学)	14:30-15:30 地域住民が考える地域活性化と共生の関係—留学生と共に取り組む事業の振り返りから— (式部絢子, 北海道大学)	14:30-15:30 日本語教師 U さんは初任から中堅期をどのように経験したか—教師歴 25 年の日本語教師のライフストーリーから— (高井かおり, 明星大学)	14:30-15:30 あるイラン人留学生の「人間関係構築の様相」と日本語の学びに関する考察—「留学生の中の少数派」による経験の語りの分析から— (山口真葵, 国際医療福祉大学)
13 (C204)	14 (C205)	15 (C205)	16 (C205)
14:30-15:30 中国出身の母親たちの子育てやコミュニティ参加についての語り—フォーカス・グループによる調査から— (杉本香, 大阪大谷大学/樋口尊子, 大阪大谷大学)	14:30-15:30 精神障害の開示・不開示—ある当事者の語りに対する社会言語学的アプローチ— (周氷竹, 大阪大学)	14:30-15:30 外国につながる子どもに対する保育における課題の検討—保育者の実践観を手がかりに— (當銘美菜, 目白大学)	14:30-15:30 言語を「移動」してきた国語科教師はどのような学びを実践しようとしているか—相互インタビューから探索する経験と言語観の結びつき— (丸田健太郎, 広島大学附属小学校/金志唯・神谷志織, 広島大学)
15:40-16:10 口頭発表 30 分			
C301	C302	C303	C304
[オンライン発表] 在日中国人家庭内言語政策の実行における理想と現実—保護者のインタビューから— (朴怡霖, お茶の水女子大学)	[オンライン発表] 日本語の「(～て)みる」の語用論的機能—勧誘形式「～よう」との共起例から探る— (鷲野亜紀, 松江工業高等専門学校)	分散化されたエージェンシーがもたらすコンヴィヴィアルなテクノロジー—ことばの教育への示唆— (尾辻恵美, シドニー工科大学/田嶋美砂子, 茨城大学)	[オンライン発表] 「気づき」の質を問うためのケーススタディ—「内への深化」「外への拡張」を目指して— (宇佐美洋, 東京大学/文野峯子, 元人間環境大学)

16:20-17:00 口頭発表 40分			
C301	C302	C303	C304
<p>研究プロセスをメタ的に語って見たら何が起こったか—デュオエスノグラフィによる質的研究の「知」の批判的検討—</p> <p>(八木真奈美, 駿河台大学/藤原京佳, 京都産業大学)</p>	<p>「日本語」の教員が,「日本語母語話者」を対象に,複言語教育をどのように実践できるか</p> <p>(山本冴里, 山口大学)</p>	<p>言語文化教育は何をめざすか—コンヴィヴィアリティのための実践研究—</p> <p>(細川英雄, 言語文化教育研究所)</p>	<p>「私のストーリーを持つ」ということ—自分史クラスの実践から考える言語学習者の「自律」とは何か—</p> <p>(高松知恵美, 立命館アジア太平洋大学/原伸太郎, 元立命館アジア太平洋大学)</p>